

特集ー子ども食堂ー

一緒に、食べよう

朝ごはん、何を食べましたか
昼ごはん、どこで食べましたか
晩ごはん、誰と食べますか？
誰かと一緒に食べるごはんは楽しくておいしい。

でも、核家族化や共働きなどの理由で
一緒に食べる機会が減っているのが現実。
ひとりのごはんは味気ない。
みんなと一緒にがやっぱり良い。

食を通してつながるー。

地域ぐるみで子どもたちを支えて育てる
「子ども食堂」を紹介します。



すくく、楽しい

1人の食事ってすごく楽。テレビを見ながらでも、携帯を触りながらでも、誰からも注意されることなく自由にできます。でも、そこに楽しみはあるのでしょうか。



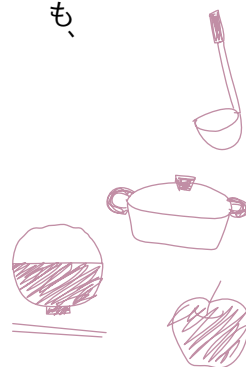
子ども食堂の秘密

核家族化により、1人暮らしの高齢者世帯や共働きの家庭が増えてきました。昔と比べて、地域との関わりが少なくなり寂しいという声を聞くことも。それは、私たちの食卓も例外ではありません。年代を問わず1人で食事をする人が増え、社会問題としても取り上げられています。

その対策として今、全国的に注目されているのが子ども食堂。子どもたちが集まり一緒に楽しく食事をするという印象ですが、地域の人たちが関わり協力し合うという、地域の拠点としての役割も持っています。

学べる

明倫子ども食堂を運営する山崎さんは、市の食生活改善推進協議会(以



下、食改)の会長を務めます。

明倫子ども食堂は、明倫児童クラブに通う子どもを対象に土曜日の昼に開催しています。食改メンバーが中心となり、食事の内容だけではなく随所に「食」に関するこだわりが見られます。

食事が終わった子どもたちはすぐに席を立ち遊び始めてしまいます。「きちんと座って待ちなさい」とときには厳しい声が響きます。家族が言っても効果がないことも、家族以外の人に言われると効果的。地域の人からマナーを学べることは、子どもたちにとって貴重な経験です。

一緒に食えること

「昔は家族と一緒に食事をするとは当たり前。しかし、最近では親は仕事、子どもたちもクラブや習い



■明倫子ども食堂
【と き】毎月第4土曜日
午前11時30分～
【ところ】明倫公民館

Interview :



明倫児童クラブ
宮久 先生

明倫児童クラブでは、月2回子ども食堂を利用しています。

普段関わることが少ない地域の人たちに食事を用意してもらうことで、子どもたちにも感謝の気持ちが芽生えているのか、後片付けやあいさつなどもこれまで以上にできるようになった気がします。

また、運営側の皆さんが季節の食材を持ち寄ることもあり、子どもたちも知らない珍しい食材に出会えることを楽しみにしているようです。

地域行事などでも、子どもたちが「あれ食堂のおばちゃんだ！」などと親しみをもって声をかける姿も見かけるようになり、子ども食堂をきっかけに地域の中でのつながりが生まれていることを実感しています。

いただきます♪



いっぱい食べてね。



■ばんじょうこども食堂
【と き】毎月第3木曜日
午後5時30分～6時30分
【ところ】番城公民館

みんな笑顔

ことがあり、家庭で一緒に食事をするのが難しくなっているように思う」と山崎さんは話します。

一緒に食事ができるのが一番だけれど、無理に毎日合わせることはストレスになることもあるかもしれません。「一緒に食べる重要性は分かっているけれど、実際は少し難しい…。そういうときにも気軽に利用して欲しい」。山崎さんからは子どもだけではなく、作り手側を含めて家庭全体を考えた想いを感じます。

宅時間が異なるため、1人になりがちな平日の晩ごはんを気にかけ、月に1回くらい学校帰りにみんなで食べて遊んで、楽しく過ごそうという想いから始まりました。

「今日は学校で何の勉強した?」「何か嫌いな食べ物ある?」など何気ない会話ですが、子どもたちはみんな笑顔。それにつられて大人も笑顔。みんなで食べる食卓は自然と笑顔があふれます。

ひとりの食事は楽だけれど、味気なく感じませんか。誰かと一緒に食べる食事はすごく楽しくて、いつも以上においしいはずです。



みんなで支える

運営団体のほかにも、ボランティアが運営を手伝ったり食材を提供したり。たくさんの方の協力がなければ子ども食堂は続きません。「食」を支えるのは大変なこと。家庭だけではなく、地域ぐるみの協力が必要不可欠です。



まだまだ現役

泰平寺で行われている子ども食堂は子どもから高齢者まで参加でき、地域の人が集まる憩いの場となっています。その運営には、退職して第一線は退いたものの、まだまだ元氣な皆さんが活躍しています。

管理栄養士や民生委員、学校や保育園の先生、看護師。それぞれの経験を生かして、地域ぐるみで支えます。「働き盛りの親の代わりに、私たちが少しでも役に立てば。第一線は退いたけれど、みんなまだまだやれるよ!」。皆さんとても活力があり、地域のお母さんのようです。

次はいつ?

運営者の1人の民生委員さんは、転入したばかりで地域との関わりが少ない子どもを気にかけ、子ども



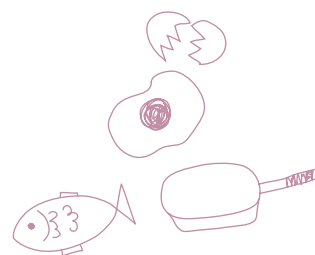
■ふれあい子ども食堂
【とき】毎月第1土曜日
午前11時30分～
【ところ】泰平寺

食堂に連れてきました。初めは馴染みづらい様子だったけれど、子どもも大人も混じってみんなで食事をして、一緒に遊んで。そうするうちに、少しずつ楽しそうに過ごすようになりました。嫌いな食べ物にも挑戦したり、残さず食べようとしたり。みんなと一緒に食べることで良い変化が起こり、今では「次はいつ?」と開催を心待ちにするほどに。

笑顔でつながる

みんなの笑顔は運営する皆さんにとっても何よりの楽しみです。一緒に食べて過ごすことで楽しさは倍増し、笑顔があふれます。

「みんなと一緒にやったり良い」子ども食堂では、家庭で補いきれないことも地域ぐるみで補います。地域のみんなを支えて育てるまちの子ども食堂は、これからも注目です。



私たちが作りました♪



野菜を提供

社会福祉法人 宇和島福祉協会では、障がい者支援施設「フレンドまつ」で生産した野菜などを提供しています。

障がいのある人の就労訓練として野菜を生産するだけではなく、子ども食堂に食材を提供するということが地域貢献にもつながります。施設長は、「生産に携わる皆さんは今まで以上に農作業に喜びを感じているようです」と話してくれました。

私たちも、子ども食堂を応援します

地域の皆さんのほかに、市内外の企業や団体、農家の皆さんなどが食材の提供を通して応援してくれています。



たくさん食べて！



お米を提供

農家の今西さんは、みま米の新米を子ども食堂に届けました。

「子どもたちの中には、みま米のおいしさを知らない子もいるかもしれない。地元にもこんなにおいしいお米があるということを感じて欲しい」と話します。ほかにも、「子どもたちの食事を地域で協力して支えていることはすごく良い活動だと思う。長く続くよう、少しではあるけれど子どもたちを支える地域の一員として協力したい」と話してくれました。

子ども食堂

※各団体によって、対象・料金などが異なります。

子ども食堂講演会

【と き】9月1日(日)
午後2時30分～
【ところ】市役所
2階大会議室
【内 容】地域における子ども食堂の役割
※参加無料、申込不要。
【講 師】NPO法人
全国こども食堂支援
センター「むすびえ」
理事長 湯浅 誠 さん

■うわつこども食堂
【と き】毎月第2土曜日
午前11時～午後1時
【ところ】宇和津公民館

■ぐらんま子ども食堂
【と き】月1回程度
午前11時30分～午後1時
【ところ】鶴島公民館

■住吉こども食堂
【と き】月1回程度
午前11時～
【ところ】住吉公民館

■ともえ子ども食堂
【と き】月1回程度
午前11時30分～
【ところ】ともえの里(桝形町)

■吉田いぬび食堂
【と き】年4回程度
午前11時30分～午後1時
【ところ】吉田公民館

■きよみつえがお食堂
【と き】年4回程度
正午～午後1時
【ところ】清満公民館

■ふれあいモーニング
【と き】毎月第4日曜日
午前9時～正午
【ところ】あすも(津島町)

<共 通>
【問合先】福祉課児童福祉係
☎24-1111内線2141